

戦後のメディアイベントと都市のまなざし： 1950年代の健康優良児童表彰事業を事例として

高井昌吏

早稲大学スポーツ科学学術院

キーワード：健康、子ども、メディアイベント、1950年代

抄録

本論考は、戦後のメディアイベント、特に「健康優良児童表彰事業」(朝日新聞社主催)に焦点をあて、子どもの健康に関する言説を分析する。先行研究では主に戦前の健康優良児表彰が議論の対象となり、メディアイベントの社会的機能、ナショナルな欲望などが考察されていた。しかしながら本論考の目的は、戦後から1960年までの朝日新聞の言説を分析し、言説の中にみられるポリティクスを明らかにすることである。

戦後の健康優良日本一は、ほとんどが裕福な家庭から選出されていたが、ときおり農村や貧困な家庭からも生まれていた。農村出身の健康優良日本一は、朝日新聞のなかでどのように描かれていたのであろうか。その表象は、戦後という時代、および都市部と農村部のヒエラルキーと密接な関わりをもっていた。

本論考の分析機軸として、「子ども観」に関わるもの(「大人志向」と「子ども志向」)および「文明観」に関わるもの(「文明信仰」)を用いている。都市は、言説の中で農村を時には排除し、時に包摂する。その際に「大人志向」と「子ども志向」および「文明信仰」はアンビバレントな形で強調されていた。

さらに、「排除と包摂」の構造そのものも決して単純なものではなく、その構造は二重性を帯びていたのである。以上のような事実を、朝日新聞に描かれた健康優良児の言説を分析することによって明らかにしている。

スポーツ科学研究, 5, 108-119, 2008年, 受付日: 2007年11月16日, 受理日: 2008年5月8日

連絡先: 高井昌吏 早稲田大学スポーツ科学学術院 359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15

TEL: 04-2947-6914 E-mail: fukinotouww@ruri.waseda.jp